

第9期第5回北海道水産業・漁村振興審議会 議事録

日時： 令和3年(2021年)8月2日(月) 14:00~16:00

場所： 第2水産ビル 3S会議室

【出席者】

(委員)

対面：川崎会長、伊藤委員、竹田委員、藤原委員、盛田委員

オンライン：木村副会長、小西委員、坪江委員、成田委員、糠塚委員、堀委員、渡邊委員

(委員出席者 12名)

(欠席：猫宮委員、中井委員)

道庁 水産林務部長、次長、水産局長、技監、水産基盤整備担当局長、企画調整担当課長、水産経営課長、水産振興課長、漁港漁村課長、漁業管理課長ほか

発言者	内容
山口企画調整担当課長	<p>ただ今から、第9期第5回北海道水産業・漁村振興審議会を開催いたします。</p> <p>司会進行を担当いたします、水産林務部総務課企画調整担当課長の山口でございます。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>本日は新型コロナウイルス感染症対策といたしまして、オンラインと併用して開催しています。カメラのトラブルでこちらの映像が映っておりませんが、このまま進めさせていただきます。</p> <p>開会にあたりまして、道水産林務部を代表して、水産林務部長の佐藤から一言ご挨拶申し上げます。</p>
佐藤水産林務部長	<p>水産林務部長の佐藤でございます。審議会の開催にあたって、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>川崎会長をはじめ、委員の皆様方には、日頃から道の水産行政の推進に当たってご理解、ご協力を頂いておりますことに、この場を借りて感謝申し上げます。</p> <p>本日の審議会では、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、初めてオンラインを活用した会議をさせていただきました。委員の皆様には何かとご不便な点等があるかと思いますが、よろしくお願いいたします。</p> <p>昨年の本道水産業を振り返ってみますと、マイワシの豊漁などにより、生産量は前年を上回ったものの、主要魚種である秋サケ、サンマ、スルメイカなどが記録的な不漁となったことに加えまして、コロナ禍による外食需要の低迷などを背景とした魚価安が影響して、生産金額は前年から375億円減となるなど、大変厳しい状況となっています。</p> <p>道ではこのような状況に対応するために、昨年7月に「北海道水産業の緊急対策」を取りまとめまして、2つの柱で施策を加速させることとし、1つは「漁業生産の早期回復」、もう1つは「道産水産物の消費拡大」でございますが、こうしたことを背景にして漁業者や漁協等の経営安定対策を進めているところでございます。</p>

特に「漁業生産の早期回復」では、環境変動に強い秋サケ稚魚の育成に取り組むとともに、新たな増養殖を推進するため、本年7月に「魚類等養殖事業化推進会議」の初会合を開きました。本道の優位性が見込めるサクラマス養殖の可能性について議論したところであり、今後、道内各地で実施可能な養殖のモデルケースを示したいと考えております。なんとか事業化に結びつけていきたいと考えております。

国の状況を説明しますと、水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化を両立させる「水産政策の改革」を推進しており、本年6月には「不漁問題に関する検討会」による取りまとめが行われました。

国の方では、これらを踏まえた新たな長期計画の検討が進められていますが、道としては、関係団体や試験研究機関などと連携しながら、本道の漁業の実態に即した施策が実施され、漁業者が安心して生産活動を継続できるよう、対応していきたいと考えております。

本日の審議会では、本道水産業・漁村の動向や本年度の道の施策、新型コロナウイルス感染症の北海道水産業への影響と対応、栽培漁業の推進方向を議題としております。様々な分野で活躍される委員の皆様からのご意見、ご助言をいただければ幸いです。

私どもは、今日の審議会を通して、水産業に関わる方々が希望を持ち、地域を支える基幹産業として一層発展できるよう、しっかりと対応していきたいと考えているので、忌憚のない活発なご意見をお願い申し上げます。本日はよろしく願いいたします。

山口企画調整担当
課長

続きまして、川崎会長からご挨拶をお願いいたします。

川崎会長

皆様ご苦勞様でございます。オンラインでご参加の皆様もご苦勞様でございます。北海道漁連の川崎です。本日のこの会議は、私ども漁師だけではなく、水産に携わる皆様方、また、漁村振興に大きく貢献出来るような会議になることを心から切望するばかりであります。

私は、浜は今大変だと思っております。私が暮らしている道東ではサンマもイカも来なくなり、秋サケも非常に落ち込んでしまった。これは道東ばかりではなく、道南も同じ状況にありますし、日本海側も少し回復したとはいえ、ホタテがあるから北海道の水産を今までどおり引っ張っていってくれるなと思えますけれども、北海道の水揚げ金額は2,000億円まで落ち込んでしまった。これは大きな問題だと思えますが、これが一夜にして3,000億円に戻るというわけではない。このような状況の中で、我々はどのようなことができるか、また浜のために何ができるか。それに携わる皆様方と考えていくことが一番大事なことではないか。そのように思っております。

今日の審議会を通じ、道庁の皆さん方と一緒に前に進めていくことに寄与できればと思っております。忌憚のないご意見をお願いします。

よろしく申し上げます。

山口企画調整担当
課長

ありがとうございました。

カメラの方が接続できましたので、こちらの会場が映っていると思うのですがけれど

も、大丈夫でしょうか。このまま進めさせていただければと思います。

まず会議に先立ちまして、委員の異動がありましたので、ご報告いたします。

黒川委員が6月下旬に本審議会委員を辞任されましたが、第9期委員の任期が8月4日までとなっていることから、後任の委員は置かず、欠員としております。

また、道におきましても4月の人事異動に伴いまして、新たな体制となっておりますので、紹介させていただきます。

先ほどご挨拶申し上げました佐藤の隣、水産林務部次長の黒澤でございます。

水産局長の古村でございます。

その隣、技監の生田でございます。

続きまして、水産基盤整備担当局長の矢本でございます。

各課の課長等につきましては、お配りしております出席者名簿及び配席図でご確認いただければと思います。

次に、本日の資料ですけれども、一覧表のとおりとなっております。不足等ございましたらお知らせください。

また、オンラインでご出席の委員の皆さまには、不都合が生じた際などに活用いただける表示札をお送りしております。何かございましたら、画面に映るようにご提示いただければと思います。

それでは、会議の進行につきましては、川崎会長にお願いいたします。よろしく願いいたします。

川崎会長

まず、本日の出席状況ですが、委員14名中オンライン7名、会場5名、合計12名の方が出席しておりますので、北海道水産業・漁村振興条例第27条2の規定により、本審議会は成立をいたします。

今回の議事録署名委員ですが、慣例により、私から指名させていただきます。今回は、「糠塚委員」と「盛田委員」にお願いします。お二人には、後日、事務局より議事録案が送付されますので、ご確認の上、署名をお願いします。

本日の議題は

- (1)「令和2年度北海道水産業・漁村の動向に関する年次報告について」、
- (2)「令和3年度水産関連施策について」

の2件でございます。事務局から内容の説明を受けた後、今後の道の施策をより良いものとするよう、皆様方のご意見・ご質問を賜りたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

最初に、議題(1)令和2年度北海道水産業・漁村の動向に関する年次報告について説明願います。

千代谷課長補佐
(水産企画)

(「令和2年度北海道水産業・漁村の動向に関する年次報告について」資料1に基づき説明。)

川崎会長

ありがとうございました。それでは説明が終わりましたので、皆様からご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。では、盛田委員。

盛田委員	<p>第1部第2章I水産業の動向1漁業の状況(2)漁業経営の状況について、教えていただきたいのが、本道の農業所得や勤労者世帯実収入を大きく下回る水準とありますが、どのくらい下回っているのでしょうか。</p> <p>もし数字がすぐに出なければ後でもいいです。</p>
川崎会長	<p>そのほかございませんか。伊藤委員。</p>
伊藤委員	<p>新型コロナウイルスの影響が一番だと思うのですが、水産物の価格が極端に下がっています。若干上がっているように見えるけれども、ホタテがよかったということがあると思うのですけれども、単価的にはほとんどの魚は下がっていて、漁業者は瀕死的な状況にあると思っています。2年後に放射性廃棄物が決まりますけれども、それまでに風評被害の対策をきちんとしていかないと、今の状況と併せて北海道の漁業は壊滅的になると考えています。そこを心配しておりますので、道の方は対策を前もって考えていただければなと思っています。</p>
古村局長	<p>伊藤委員のおっしゃる通りだと思いますので、国の方の動きも注視しつつ、何ができるのか引き続き検討していきたいと思っていますし、対応も考えていきたいと思っています。</p> <p>先ほどの盛田委員からの質問ですが、数字的には、「北海道水産業・漁村のすがた」の63ページに載っているのですが、平成30年度の漁労所得は301万円で、農業所得は950万円ですので、かなり差があるということになっております。</p>
川崎会長	<p>そのほかございませんか。オンラインの皆様もなにかございませんか。ないようですので、議題(2)令和3年度水産関連施策について説明願います。</p>
千代谷課長補佐 (水産企画)	<p>(「令和2年度北海道水産政策の展開方向について」資料2-1、2に基づき説明。)</p>
津久井水産振興課 長	<p>(「栽培漁業の推進方向について」資料2-3に基づき説明。)</p>
川崎会長	<p>ありがとうございました。それでは説明が終わりましたので、皆様からご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。木村委員。</p>
木村委員	<p>資料2-1の展開方向と主な施策 V水産業・漁村の発展を支える水産技術の向上と道民理解の促進のところで、ICT技術を活用したコンブ生産とありますが、将来を考えた場合は、ICTではなく、IoT技術ではないかと私は思うのですが、現状ではドローンを使って写真を撮ることに留まっていますけれども、ドローンを使って、漁場環境を測る、漁場の最適化をしていくことはまさにIoTであり、今後Society5.0を考えたときに、この項目はICTではなく、IoTと書くべきなのではないかと思っています。背景にあるように漁業者の減少、高齢化という厳しい労働条件を緩和していく上でも、</p>

こういった新たな I o T 技術をフィードバックさせながら漁業者が減少していく事に対して新しい技術で対応していくという考え方が本来示されるべきではないかと思っていますが、いかがでしょうか。

生田技監

ご意見、ご質問ありがとうございます。ICTではなく、IoTの方がよいのではないかということですが、ICT、IoT含めて機械を活用して、漁場の環境の把握や、ドローンを使って空撮して、コンブ漁場の状況を把握しようとするものでありますが、木村委員がおっしゃるように、漁業者が減少していく中で、また海洋環境の変化にどう対応していくのか、海洋環境観測も含め、どのような対応をしていくべきか、今後考えていきたいと思っています。

また、日本海対策の支援事業で漁場環境の把握と併せて、漁業の取組を進めていくという支援事業を今年度から始めたので、このようなものを活用して行きたいと思っている。

木村委員

ありがとうございます。もう1点ですが、空中ドローンを使うということですが、今は水中ドローンもありますし、ドローン技術というものは次の技術の一つのトピックになってくると思いますが、漁港の老朽化問題、その他の問題に対して、人間が対応、計測するのではなく、ドローンを用いることで効率的に計測、対応できることになってくる。AIが対応したり計測したりすることになる。ということは、モノのインターネット化、情報の集約、それを的確にモデル化、適切化していくなかで効率化を図る。これがますます必要となってくる。これはコストと時間が節約できる。なのでICTというよりIoTいわゆるAIのテクノロジーを組み合わせながら、情報が一番遅れていると言われている水産分野の様々なことを加速化していくということが大事かと思っています。

川崎会長

ありがとうございました。他にありませんか。では堀委員。お願いします。

堀委員

日本海海域の生産量が非常に下がっている、格差が非常に大きいということで、課題のところ、日本海海域の増養殖など、新しい生産体制作りを進めていくとありますが、これを見ただけではどんなことをすればよいのかわからない。他の都府県でやっている事業が参考になるとか、示していただければと思います。これは後で良いです。

それと、密漁対策です。先日、留萌管内苫前町で密漁グループが摘発されました。ナマコ700キロ、220万円相当です。以前はアワビが主でしたが、容易に採取できると言うことか、今はナマコが密漁されています。罰則は強化されましたが、不審者を通報するシステム、地域の体制づくりも必要かと思っています。

もう1点ですが、水産関連施策には入らないかもしれませんが、海岸漂着物についてです。以前もお話しさせていただいておりますが、河畔林から出る木材が多いということで、定置網に被害が出ている。それとともに、ボンデン、ロープ、漁網など漁業者から出る漁業資材も目立つということでもあります。水産の方で漁協と連携して、海の環境を守るということも必要かと思っています。

最後にニシンについてですが、留萌管内、石狩から日本海北部で明るい話題であります。今年は145トンと豊漁で値段も良い。今後とも春ニシン期待しています。道の方

でも放流事業など支援していただきたいと思います。今年、初めて増毛町で群来を見ました。藻場づくりも大切かと思しますので、併せて進めていかなければ行かないと思います。

古村局長

まず日本海対策ですが、コマーシャルペーパーだけではわかりにくいとのことで、また、他の地区ではどのような事業が行われているかということですが、先週留萌管内の漁協に説明させていただく中で、檜山、後志管内の取組を紹介させていただいております。引き続き、このような情報提供をしていき、日本海振興を進めていきたいと思っています。

それから、密漁対策ですが、ご承知のとおり、漁業法が改正となり、アワビ、ナマコに関しては罰則が3,000万円と大幅な強化となりましたが、先日留萌管内で暴力団関係者が検挙されました。依然として密漁が横行していることから、警察、海上保安庁と連携し、また、取締船を重点的に配備しておりますけれども、それだけでは、根絶できないと思い、監視体制を漁協とも連携して、様々な対策が必要と思っています。来年以降施行される流通適正化法で密漁されたものが流通しにくい環境が整備されていくので、これも含めて密漁対策を進めていきたいと思っています。

次に、環境問題の関係で漁網などの廃棄について質問いただきましたが、先日川崎会長からもご指摘いただきましたが、鉛を含むロープなどがあって処分方法が限られたりするので、ごみを出さないという対策も必要かと思し、平行して、国にも要望しながら、環境部署とも連携して、対応していきたいと思っています。

最後にニシンの関係ですが、日本海側はもちろん、全道的にも豊漁となっております。石狩地区が先行していたのが、ここ2～3年で留萌地区にも拡大しておりますし、種苗放流と併せて網目制限など資源管理の取組も効果が現れていると思いますので、引き続き種苗放流などの取組を充実させていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

川崎会長

ありがとうございました。堀委員、よろしいでしょうか。はい、ではそのほか何かございませんか。藤原委員お願いします。

藤原委員

消費拡大の観点から3点ほど。先日、八雲町の旅館に泊まることありまして、そのときの夕飯で、真っ赤なサーモンのしゃぶしゃぶができました。どこのサーモンですかと聞くと、二海サーモンですと。熊石で養殖されているとのことで養殖サーモンに期待はしていなかったのですが、クセもなく、美味しいと食べていたのですが、養殖というのはイメージと販路を工夫していかないといけないと思って帰ってきました。

2つめ、テレビでイオン北海道の宣伝をしています。今週は厚岸のカキですとか知内のカキですとかやっています。なんとなく買いたくなるというか、もっともっとマスメディアを使ったPRですとか力を入れていったらどうかと思っています。

もう1つは、おにぎり。セブンイレブンでは道産米をベースにして、山わさび、たらこ、ホタテの稚貝など北海道産を使っていて、米も美味しいし、中身も美味しい。巣ごもりで消費が伸びないと言われておりますが、家で食べるものを誰でもいつでも買いに行けるので、コンビニはチャンスであると思う。道産米と併せておにぎりの中身の水産

物を買って行くために、コンビニなどと提携して進めていったらどうかと思っています。

古村局長

ごもっともな意見かと思えます。

二海サーモンにつきましては、先ほど水産振興課長からもあったように、既に取り組を進めている町でございまして、支援の方を進めて、どんどん拡大して行ってほしいと思っておりますし、消費拡大に関しては、道産水産物売り込むために、イメージアップの戦略というのは様々あると思えますので、藤原委員からお話があったようなことを活用しながら関係団体とも連携して取り組を進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

川崎会長

そのほかございませんか。

盛田委員

お願いがありまして、つくり育てるということを進めていきたいのですが、私たちが漁協に提案しても制約がいろいろあるようでしてなかなか前に進まないの、特別採捕の許可などの考え方を緩和していただけないかと思っておりました。

古村局長

そのような事に関しては、個別にどういった対応ができるのかということ、地元と協議していきたいと思えます。

ニシンについて、補足がございまして。

津久井水産振興課長

先ほど、堀委員からニシンの関係についてご発言をいただきましたが、ニシンについて、最近では特に日本海北部の回帰率が高いのですけれども、これをさらに高めるといことで、今までは石狩湾産の親魚を使って放流していたのですが、今年度からは、留萌管内産の親魚を使って放流するということ、3ヶ年やっていきますので、ご協力をお願いします。

川崎会長

そのほかございませんか。木村委員どうぞ。

木村委員

ここにきて栽培漁業が加速しているということは、資源の低迷や環境が問題となっているからですが、非常に良いことだと思います。今までの北海道、サケの回帰が多いときはこのような議論になっていないと思っておりますけれども、養殖事業を行っていくということは、エネルギーと資源の問題を併せて考えていく必要があると思えます。エサをあげて育てていく、海でやるにしても、陸でやるにしてもエサをあげる必要があるの、いかに種苗の生産を安定させていくか、ということと、エサの問題を解決しなければいけないと思えます。すぐというわけにはいかないでしょうけれども、自然エネルギーを活用していくと、いくとも考えていかなければいけないし、エサも例えば都市圏で廃棄される食料の活用やエサになる昆虫を育てるということも検討していけると思っております。将来にわたる持続的な生産システムを養殖の中で考えていく必要があると思えますがいかがでしょうか。

矢本水産基盤整備 担当局長	ご意見ありがとうございます。エサの関係ですけれども、魚類養殖では、種苗費と餌代が支出の6割を占めるので、ここをコストカットしていかないと、事業化にならない。廃棄される食料や昆虫を今すぐということは難しいと思いますが、考えていく必要があります。餌代をいかに安くできるか、道総研などの研究機関と一緒に検討していきたいと思っており、その先には、廃棄食料の再利用も出てくるかと思っています。
川崎会長	よろしいでしょうか。では成田委員どうぞ。
成田委員	質問ですが、資料2-3の二枚貝等の養殖について、ムール貝などの養殖技術の普及を進めていくとのことですが、水産白書の中 P38 では、イワガキなどと記載もあります。ムール貝以外のマガキなどの二枚貝はどのくらい力を入れていくのか、わかりにくかったので、説明をお願いします。 質問の他に、意見ですが、北海道の Facebook「どさんぎょ」で魚の情報やレシピなどを共有しているのを拝見しておりますが、最近の20～30代の若い層は Facebook よりも Instagram を利用して情報を収集していることが多く、Instagram ではブックマークができるので、レシピなどを後から見返す機能があります。浜のかあさん直伝のレシピや漁師さんならではの調理方法や保存方法などが共有されたら良いのではないかなと思います。
矢本水産基盤整備 担当局長	ムール貝以外の養殖ということですが、アサリについても試験が終わって方向性が出てきております。そのほかですが、赤貝について、養殖ができるかどうか、検討を進めていきます。
古村局長	あと、SNSの活用ということですが、現在は Facebook でどさんぎょを運営しておりますけれども、最近の若者は Instagram を活用しているということで、今後の参考にさせていただきたいと思います。私は詳しくないので、若手職員とも協議しながら、検討していきたいと思います。
川崎会長	他に何かございませんか。盛田委員。
盛田委員	輸出額の目標である1,100億円などいろいろな目標数値があったりして、課題があって、それに対する施策があって、計画数値があると思うのですが、現段階の数値をこの審議会ですべて示していただくと、みなさんもわかりやすく良いのではないかと思います。
古村局長	貴重なご意見として、今後参考にさせていただきたいと思います。数値目標については、今後、北海道水産業・漁村振興推進計画の見直しもありますので、達成状況をわかりやすく説明できるようにしたいと思います。
川崎会長	他に何かございませんか。無いようですので、これをもちまして、本日の議案は終了させていただきます。ありがとうございました。

山口企画調整担当
課長

川崎会長、どうもありがとうございました。閉会にあたりまして、水産林務部長の佐藤からご挨拶申し上げます。

佐藤水産林務部長

本日は、長時間にわたり、熱心なご審議を頂き、厚く御礼申し上げます。

いろいろご意見いただいた中で、ICT、IoTや、日本海地域の振興、栽培漁業の推進や密漁対策など、多岐にわたるご意見をいただきました。その中で、栽培漁業の推進についてのご意見が多かったかなと思います。いろいろな課題がある中で、コストも考えながら、マーケットインの視点をもって、これから進めていく。北海道が進める取り組みは、先導的な取組として進めていくこととなりますが、少しでも前に進めていけるようにしたい。個人的には、各地域の取組を、いかに底上げしていくかが大事かと思っています。一進一退を繰り返しながら地域の取組が進んでいますが、そこを北海道が後押し、またはフォローアップしていくか、しっかり考えていかなければならない。

もう1点は消費拡大を昨年よりも重点的に進めていかなければならない。緊急事態宣言が出されて、解除されて、また札幌を中心としてまん延防止対策が講じられている中で、魚価の高いものから消費が落ち込むということになりかねない。巣ごもり需要という言葉聞いて長いですが、家庭内での消費が高まっているという状況に対して、今獲れている魚種をどんな風に付加価値をつけていくかということが大事かなと思っております。イワシにしても、ニシンにしても、少しでも食べやすく、流通時点で付加価値がつくような取組ができないかと。イワシのフェアを全道でやりますが、昨年の取組を踏まえて、もっと効果的にできる方法を私もしっかりと考えていかなければならないと思っています。

いろいろ課題はございますが、引き続き委員の皆様にはお世話になるとしますので、よろしく願いいたします。

審議会委員の任期が8月4日で満了するため、今日が第9期最後の審議会となります。改めまして、川崎会長、木村副会長をはじめ、委員の皆様には、様々なご意見をいただきまして感謝申し上げます。

審議会の任期は満了となるが、今後とも、本道水産業・漁村の振興のため、ご指導をいただければと思います。よろしく願い申し上げます。長くなりましたが、お礼の挨拶とします。ありがとうございました。

山口企画調整担当
課長

これももちまして第9期第5回北海道水産業・漁村振興審議会を終了いたします。

初めてのオンライン併用の開催と言うことで、映像トラブル等申し訳ありませんでした。本日は長時間にわたり、どうもありがとうございました。

以上、議事の経過及びその結果を記載し、議事録署名委員2名により署名する。

第9期北海道水産業・漁村振興審議会

令和 3 年 8 月 17 日

議事録署名委員

糠 塚 右

令和 3 年 8 月 20 日

議事録署名委員

盛 田 昌 新